

幼児期からの育ち・学びとプロセスの質に関する研究

幼児期に受けた質の高い教育は、生涯にわたって人生に好ましい影響を与え得ることや、その影響は幼児期に育まれるいわゆる社会情緒的スキルによって生じていると示唆されることなどが海外の縦断研究などによって示されている。海外では、幼児教育の質を測り、質の向上に向けた努力を促すためのスケールの開発も進んでいる。

このため、本研究では、日本の幼児を対象とした質問紙調査や各種検査を行うことにより、幼児期から児童期にかけての社会情緒的スキルや認知的スキルの発達の状況、それらを支える家庭環境、保育者・教師の関わりとの関連等を検討するとともに、日本の幼児教育・保育の文脈に沿った質評価スケール案の検討を行った。研究成果は報告書第1巻と第2巻に分けて示しており、概要は以下のとおり。

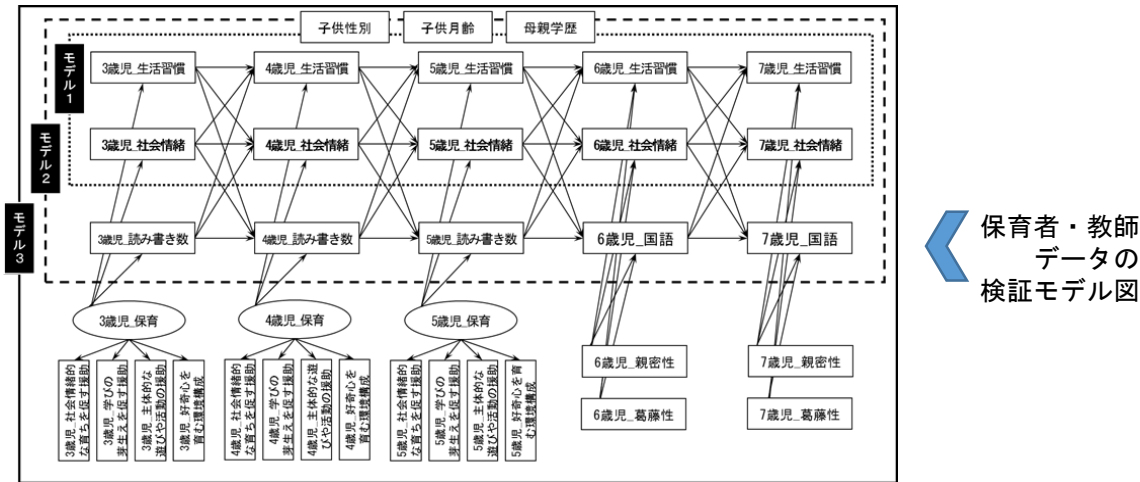
第1巻 幼児期からの育ち・学びに関する研究

第1部：社会情緒的スキルに関する近年の研究動向

家庭環境、幼児教育・保育と子供の社会情緒的発達に関する研究動向

第2部：質問紙調査の結果のまとめ

2,000名を超える3歳児を対象として7歳児（小学校2年生）になるまで毎年、保護者と担任の保育者や小学校教師に、その子供の学びや育ち等を尋ねた質問紙調査の結果に関する分析



どの時期においても、生活習慣の形成が子供のスキルの土台となりうることや、社会情緒的スキルが認知的スキルを支える面もあれば、認知的スキルが社会情緒的スキルの育ちを促す面も見られ、この時期の子供が様々なスキルを総合的に獲得していることを提示。また、5つの社会情緒的スキル間の影響関係について、保護者と保育者・教師では違いがあり、保護者データではプラスの影響だったものが、保育者・教師データでは、好奇心、自己主張と、粘り強さ、自己調整、協同性の間に一部マイナスの影響が見られた。保育者・教師が好奇心、自己主張を集団生活の場でどう捉えているかが影響している可能性等を示唆。

第3部：各種検査及び学力調査の結果のまとめ

約150人の3歳児を対象として、認知的スキルや社会情緒的スキル、実行機能を測る各種検査を幼児期に毎年行った結果と、それらの子供の小学校入学後の学力検査の結果に関する分析

第2巻 幼児教育におけるプロセスの質に関する研究

第1部：海外と国内における幼児教育の質に関する研究動向

国内外での幼児教育の質に関する研究動向と、質評価スケールの活用状況

第2部：「幼児教育における保育実践の質評価スケール案：主体的な関わり、社会情緒的な育ちと学びの芽生えに着目して」

海外の質評価スケールからの知見を取り入れ、10園（幼稚園、保育所、認定こども園）21クラスで試行実施の協力を得て、保育者や管理職の意見も踏まえて作成した質評価スケール案を紹介。なお、質評価スケール案は、一つのツールとして任意に活用できる水準の内容ではあるものの、さらなる検討が必要な課題もあり、引き続き、園の協力を得て改善する予定。

- I 健康と安全への配慮と指導：子供の健康、衛生、安全のため、保育者が配慮し指導している内容
- II 社会情緒的な育ちを促す援助：応答的に関わり、子供の社会情緒的な育ちを促している内容
- III 主体的な遊びや活動の援助：子供が主体的に遊び、活動するように促し支えている内容
- IV 好奇心を育む環境構成：子供の興味・関心を促し、好奇心を高めるような環境を構成する内容
- V 人とのコミュニケーションや言葉の援助：子供が人とやりとりして、自分の考えを伝え、話し合い、言葉を使用するように促している内容
- VI 言語的な表現の援助：絵本・物語・歌・言葉遊び等の遊びや活動を通して、子供の言語的な表現を育み促している内容
- VII 数量・図形や科学への興味・関心、感覚の援助：子供の身近な自然や数量・図形、科学への興味・関心や感覚、考え方を育み促している内容
- VIII 思考し探究するプロセスの援助：子供が考えながら作ったり調べたりして、探究しようとすることを支え広げていく内容
- IX 協同や課題解決に向かうプロセスの援助：子供たちが協同して取り組み、課題を解決しようとすることを支えていく内容

第3部：質評価スケール案の作成過程で行った試行実施

質評価スケール案の作成過程で行った試行実施の方法と結果

第4部：質評価スケール案の活用方法

質評価スケール案を用いた評定の研修や、園の研修での活用方法